

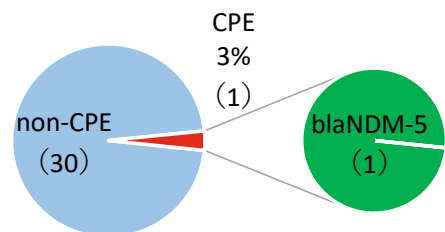
各年のカルバペネマーゼ遺伝子保有状況（2024年1～12月）

【目的】 2017年から、地域における薬剤耐性菌の蔓延などの流行状況を把握するため、カルバペナム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症の届出があった際は菌株を収集し、地方衛生研究所等において耐性遺伝子等の検査を実施しています。

【対象】 2024年に石川県で届出のあったCRE感染症31件のうち、石川県保健環境センターに菌株が搬入された31株

【結果】 ・CRE31株のうち、1株（3%）からカルバペネマーゼ遺伝子が検出されました
・検出されたカルバペネマーゼ遺伝子の内訳は、NDM型1株でした

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（全体）

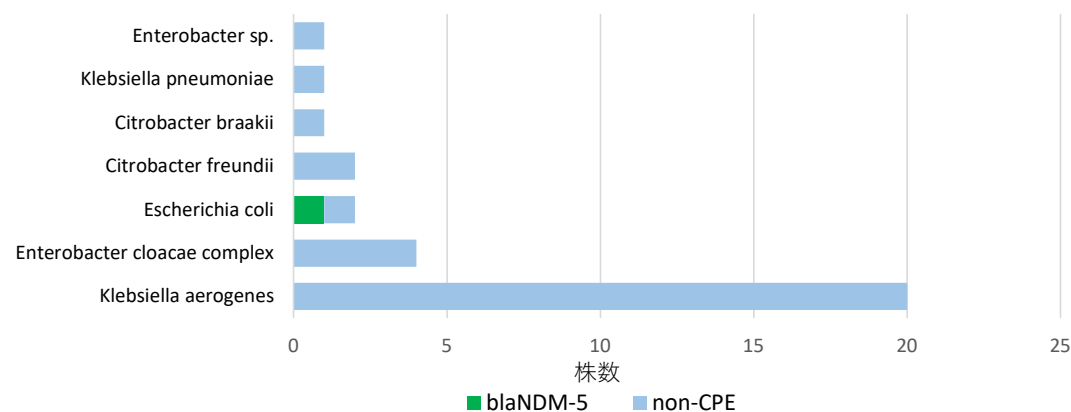


（ ）内の数字は株数

CPE：カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌

non-CPE：カルバペネマーゼ非産生腸内細菌目細菌

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（菌種別）



全国におけるCRE検出状況

出典：[IASR Vol. 47 p97-99: 2026年5月号](#)

- ・2024年第1～52週の届出数は2277例であり、そのうち病原体サーベイランスとしてシステムに登録されたものは1872株※1であった。
- ・上位6菌種は、*Klebsiella aerogenes*（39.0%）、*Enterobacter cloacae complex*（28.8%）、*Klebsiella pneumoniae*（13.2%）、*Escherichia coli*（6.8%）、*Serratia marcescens*（3.6%）、*Citrobacter freundii*（2.4%）であった。
- ・1872株のうち、カルバペネマーゼ遺伝子陽性株は273株（14.6%）であった。
カルバペネマーゼ遺伝子型の内訳は、IMP型が71.4%で最も多く、主に海外で多く分離されているNDM型は22.3%、KPC型は3.3%、OXA-48型は2.9%であった。
- ・IMP型陽性株の上位3菌種は、*E. cloacae complex*（44.6%）、*K. pneumoniae*（25.6%）、*E. coli*（14.9%）であった。

※1 保菌例など臨時的な届出基準を満たさない患者由来株が一部含まれる可能性がある

更新日：2026年6月17日

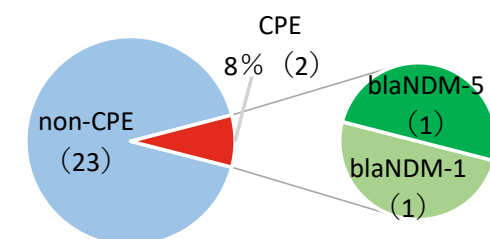
各年のカルバペネマーゼ遺伝子保有状況（2023年1～12月）

【目的】 2017年から、地域における薬剤耐性菌の蔓延などの流行状況を把握するため、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症の届出があった際は菌株を収集し、地方衛生研究所等において耐性遺伝子等の検査を実施しています。

【対象】 2023年に石川県で届出のあったCRE感染症25件のうち、石川県保健環境センターに菌株が搬入された25株

【結果】 ・CRE25株のうち、2株（8%）からカルバペネマーゼ遺伝子が検出されました
・検出されたカルバペネマーゼ遺伝子の内訳は、NDM型2株でした

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（全体）

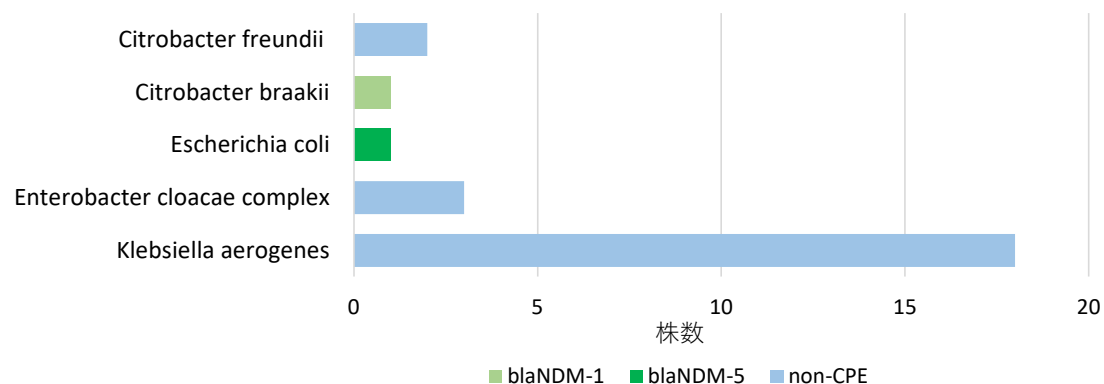


() 内の数字は株数

CPE：カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌

non-CPE：カルバペネマーゼ非産生腸内細菌目細菌

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（菌種別）



全国におけるCRE検出状況

出典：[IASR Vol. 47 p52-54: 2026年3月号](#)

- ・2023年第1～52週の届出数は2113例であり、そのうち病原体サーベイランスとしてシステムに登録されたものは1620株※¹であった。
- ・上位5菌種は、*Klebsiella aerogenes*（42.4%）、*Enterobacter cloacae complex*（27.0%）、*Klebsiella pneumoniae*（13.0%）、*Escherichia coli*（6.2%）、*Serratia marcescens*（3.3%）であった。
- ・1620株のうち、カルバペネマーゼ遺伝子陽性株は215株（13.3%）であった。
カルバペネマーゼ遺伝子型の内訳は、IMP型が74.4%で最も多く、主に海外で多く分離されているNDM型は16.7%、KPC型は3.7%、OXA-48型は2.8%であった。
- ・IMP型陽性株の上位3菌種は、*E. cloacae complex*（36.3%）、*K. pneumoniae*（31.9%）、*E. coli*（13.1%）であった。

※ 1 保菌例など臨床的な届出基準を満たさない患者由来株が一部含まれる可能性がある。

更新日：2026年6月17日

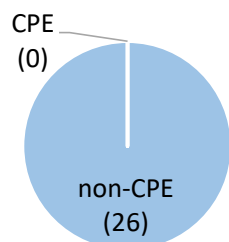
各年のカルバペネマーゼ遺伝子保有状況（2022年1～12月）

【目的】 2017年から、地域における薬剤耐性菌の蔓延などの流行状況を把握するため、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症の届出があった際は菌株を収集し、地方衛生研究所等において耐性遺伝子等の検査を実施しています。

【対象】 2022年に石川県で届出のあったCRE感染症27件のうち、石川県保健環境センターに菌株が搬入された26株

【結果】 CRE26株からカルバペネマーゼ遺伝子は検出されませんでした

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（全体）

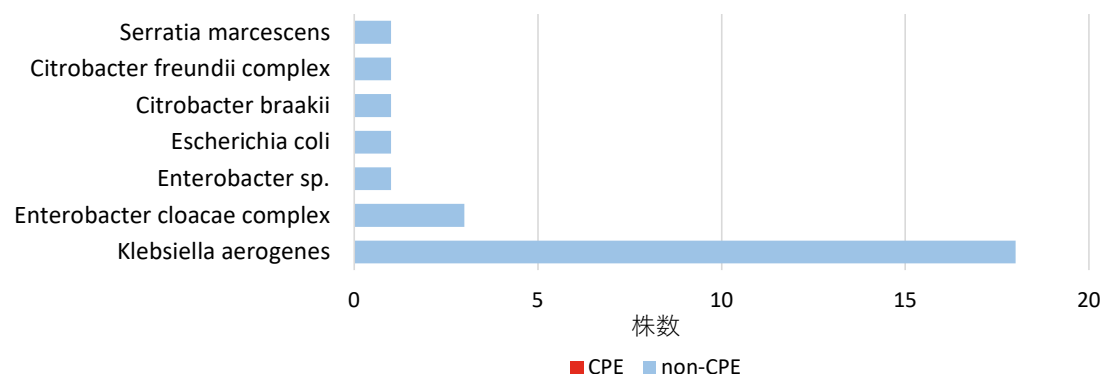


() 内の数字は株数

CPE：カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌

non-CPE：カルバペネマーゼ非産生腸内細菌目細菌

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（菌種別）



全国におけるCRE検出状況

出典：[IASR Vol.45 p129-130:2024年7月号](#)

- ・2022年第1～52週の届出数は2015例であり、そのうち病原体サーベイランスとしてシステムに登録されたものは1426株*であった。
- ・上位6菌種は、*Klebsiella aerogenes*（39.8%）、*Enterobacter cloacae complex*（29.1%）、*Klebsiella pneumoniae*（9.6%）、*Escherichia coli*（5.3%）、*Serratia marcescens*（4.3%）、*Citrobacter freundii*（2.2%）であった。
- ・1426株のうち、カルバペネマーゼ遺伝子陽性株は212株（14.9%）であった。
カルバペネマーゼ遺伝子型の内訳は、IMP型が81.6%で最も多く、主に海外で多く分離されているNDM型は15.6%、KPC型は0.9%、OXA-48型は0.9%であった。
- ・IMP型陽性株の上位3菌種は、*E. cloacae complex*（50.9%）、*K. pneumoniae*（20.2%）、*E. coli*（13.9%）であった。

*保菌例など臨床的な届出基準を満たさない患者由来株が一部含まれる可能性がある

更新日：2026年3月11日

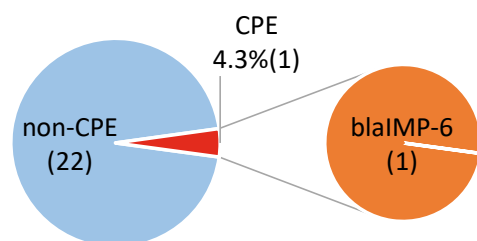
各年のカルバペネマーゼ遺伝子保有状況（2021年1～12月）

【目的】 2017年から、地域における薬剤耐性菌の蔓延などの流行状況を把握するため、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症の届出があった際は菌株を収集し、地方衛生研究所等において耐性遺伝子等の検査を実施しています。

【対象】 2021年に石川県で届出のあったCRE感染症24件のうち、石川県保健環境センターに菌株が搬入された23株

【結果】 ・CRE23株のうち、1株（4.3%）からカルバペネマーゼ遺伝子が検出されました
・検出されたカルバペネマーゼ遺伝子の内訳は、IMP型1株でした

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（全体）

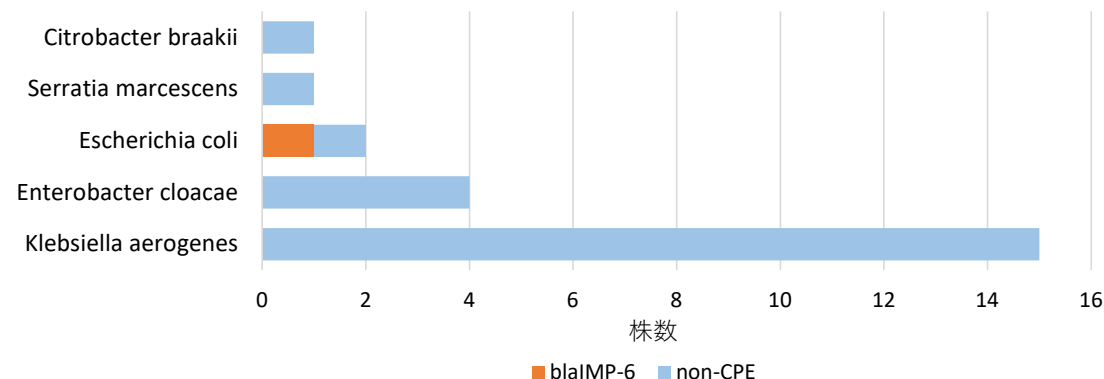


() 内の数字は株数

CPE：カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌

non-CPE：カルバペネマーゼ非産生腸内細菌目細菌

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（菌種別）



全国におけるCRE検出状況

出典：[IASR Vol.44 p130-131:2023年8月号](#)

- ・2021年第1～53週の届出数は2066例であり、そのうち病原体サーベイランスとしてシステムに登録されたものは1441株※であった。
- ・上位6菌種は、*Klebsiella aerogenes*（41.0%）、*Enterobacter cloacae complex*（25.7%）、*Klebsiella pneumoniae*（11.6%）、*Escherichia coli*（6.7%）、*Serratia marcescens*（3.7%）、*Klebsiella oxytoca*（1.9%）であった。
- ・1441株のうち、カルバペネマーゼ遺伝子陽性株は217株（15.1%）であった。
カルバペネマーゼ遺伝子型の内訳は、IMP型が87.1%で最も多く、主に海外で多く分離されているNDM型は7.4%、KPC型は0.9%、OXA-48型は0.9%であった。
- ・IMP型陽性株の上位3菌種は、*E. cloacae complex*（32.8%）、*K. pneumoniae*（30.2%）、*E. coli*（16.9%）であった。

※保菌例など臨床的な届出基準を満たさない患者由来株が一部含まれる可能性がある

更新日：2026年3月11日

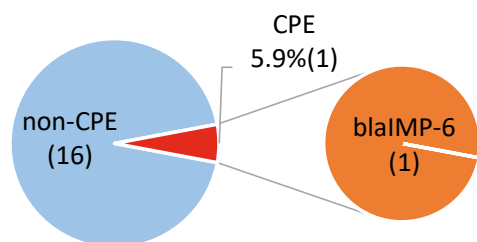
各年のカルバペネマーゼ遺伝子保有状況（2020年1～12月）

【目的】 2017年から、地域における薬剤耐性菌の蔓延などの流行状況を把握するため、カルバペナム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症の届出があった際は菌株を収集し、地方衛生研究所等において耐性遺伝子等の検査を実施しています。

【対象】 2020年に石川県で届出のあったCRE感染症18件のうち、石川県保健環境センターに菌株が搬入された17株

【結果】 ・CRE17株のうち、1株（5.9%）からカルバペネマーゼ遺伝子が検出されました
・検出されたカルバペネマーゼ遺伝子の内訳は、IMP型1株でした

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（全体）

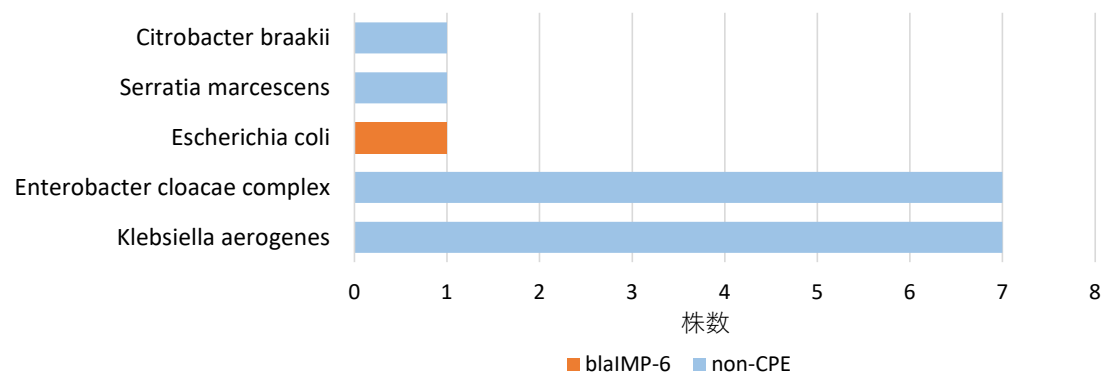


() 内の数字は株数

CPE：カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌

non-CPE：カルバペネマーゼ非産生腸内細菌目細菌

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（菌種別）



全国におけるCRE検出状況

出典：[IASR Vol.43 p215-216:2022年9月号](#)

- ・2020年第1～53週の届出数は1956例であり、そのうち病原体サーベイランスとしてシステムに登録されたものは1380株※であった。
- ・上位6菌種は、*Klebsiella aerogenes*（43.4%）、*Enterobacter cloacae complex*（26.4%）、*Klebsiella pneumoniae*（11.2%）、*Escherichia coli*（7.0%）、*Serratia marcescens*（4.1%）、*Citrobacter freundii*（2.2%）であった。
- ・1380株のうち、カルバペネマーゼ遺伝子陽性株は240株（17.4%）であった。
カルバペネマーゼ遺伝子型の内訳は、IMP型が85.0%で最も多く、主に海外で多く分離されているNDM型は8.8%、KPC型は0.4%、OXA-48型は0.8%であった。
- ・IMP型陽性株の上位3菌種は、*E. cloacae complex*（39.2%）、*K. pneumoniae*（35.3%）、*E. coli*（12.3%）であった。

※保菌例など臨床的な届出基準を満たさない患者由来株が一部含まれる可能性がある

更新日：2026年3月11日

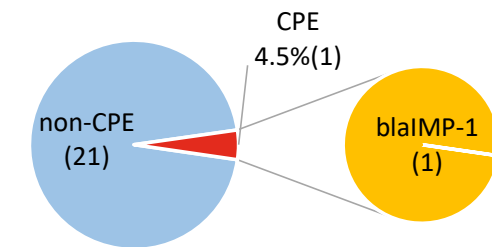
各年のカルバペネマーゼ遺伝子保有状況（2019年1～12月）

【目的】 2017年から、地域における薬剤耐性菌の蔓延などの流行状況を把握するため、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症の届出があった際は菌株を収集し、地方衛生研究所等において耐性遺伝子等の検査を実施しています。

【対象】 2019年に石川県で届出のあったCRE感染症24件のうち、石川県保健環境センターに菌株が搬入された22株

【結果】 ・CRE22株のうち、1株（4.5%）からカルバペネマーゼ遺伝子が検出されました
・検出されたカルバペネマーゼ遺伝子の内訳は、IMP型1株でした

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（全体）

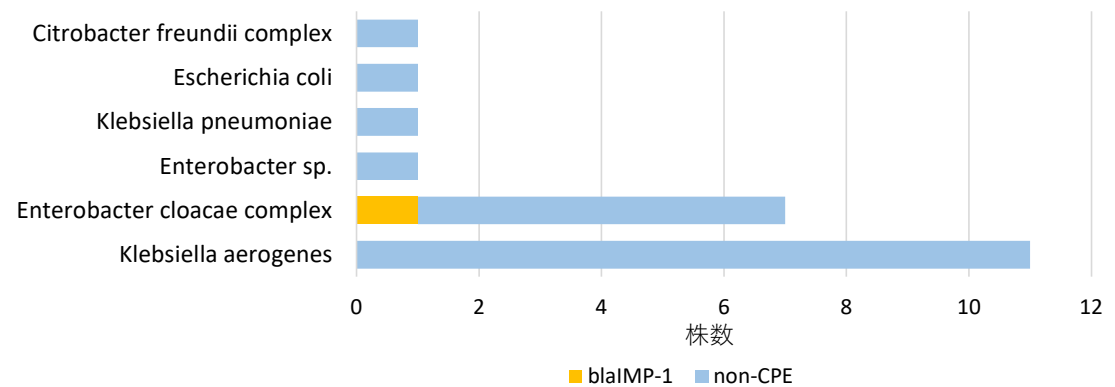


() 内の数字は株数

CPE：カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌

non-CPE：カルバペネマーゼ非産生腸内細菌目細菌

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（菌種別）



全国におけるCRE検出状況

出典：[IASR Vol.42 p123-124:2021年6月号](#)

- ・2019年第1～52週の届出数は2333例であり、そのうち病原体サーベイランスとしてシステムに登録されたものは1799株※であった。
- ・上位6菌種は、*Klebsiella aerogenes*（40.7%）、*Enterobacter cloacae complex*（29.6%）、*Klebsiella pneumoniae*（10.0%）、*Escherichia coli*（6.5%）、*Serratia marcescens*（3.4%）、*Citrobacter freundii*（2.1%）であった。
- ・1799株のうち、カルバペネマーゼ遺伝子陽性株は296株（16.5%）であった。
カルバペネマーゼ遺伝子型の内訳（重複あり）は、IMP型が88.6%で最も多く、主に海外で多く分離されているNDM型は7.7%、KPC型は1.7%であった。
- ・IMP型陽性株の上位3菌種は、*E. cloacae complex*（35.7%）、*K. pneumoniae*（27.4%）、*E. coli*（16.3%）であった。

※保菌例など臨床的な届出基準を満たさない患者由来株が一部含まれる可能性がある

更新日：2026年3月11日

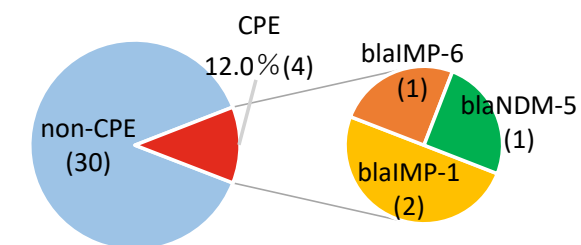
各年のカルバペネマーゼ遺伝子保有状況（2018年1～12月）

【目的】 2017年から、地域における薬剤耐性菌の蔓延などの流行状況を把握するため、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症の届出があった際は菌株を収集し、地方衛生研究所等において耐性遺伝子等の検査を実施しています。

【対象】 2018年に石川県で届出のあったCRE感染症34件のうち、石川県保健環境センターに菌株が搬入された34株

【結果】 ・CRE34株のうち、4株（12%）からカルバペネマーゼ遺伝子が検出されました
 ・検出されたカルバペネマーゼ遺伝子の内訳は、IMP型3株、NDM型1株でした

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（全体）

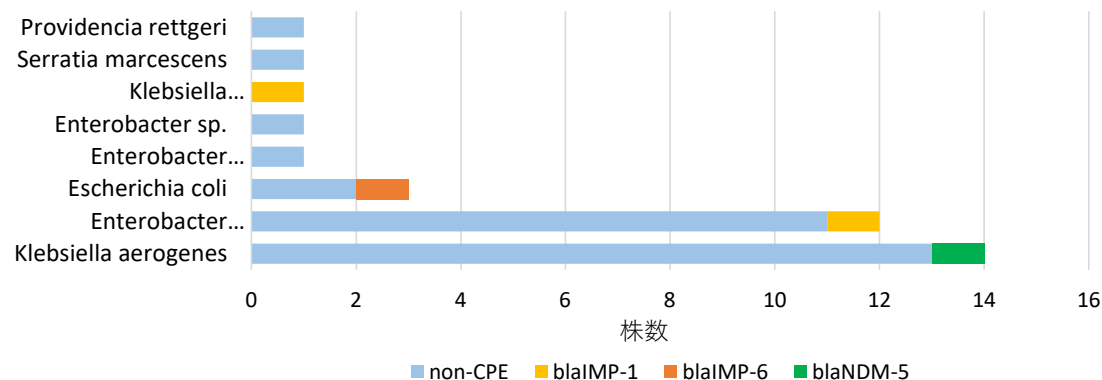


() 内の数字は株数

CPE：カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌

non-CPE：カルバペネマーゼ非産生腸内細菌目細菌

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（菌種別）



全国におけるCRE検出状況

出典：[IASR Vol.40 p157-158:2019年9月号](#)

- ・2018年第1～52週の届出数は2289例であり、そのうち病原体サーベイランスとしてシステムに登録されたものは1684株※であった。
- ・上位6菌種は、*Klebsiella aerogenes*（37.5%）、*Enterobacter cloacae complex*（27.3%）、*Klebsiella pneumoniae*（10.0%）、*Escherichia coli*（9.1%）、*Serratia marcescens*（4.8%）、*Citrobacter freundii*（2.3%）であった。
- ・1799株のうち、カルバペネマーゼ遺伝子陽性株は297株（17.6%）であった。
 カルバペネマーゼ遺伝子型の内訳（重複あり）は、IMP型が85.5%で最も多く、主に海外で多く分離されているNDM型は10.4%、KPC型は3.4%であった。
- ・IMP型陽性株の上位3菌種は、*E. cloacae complex*（32.3%）、*K. pneumoniae*（25.2%）、*E. coli*（24.8%）であった。

※保菌例など臨時的な届出基準を満たさない患者由来株が一部含まれる可能性がある

更新日：2026年3月11日

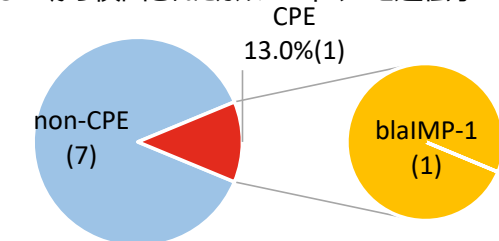
各年のカルバペネマーゼ遺伝子保有状況（2017年4～12月）

【目的】 2017年から、地域における薬剤耐性菌の蔓延などの流行状況を把握するため、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症の届出があった際は地方衛生研究所等において耐性遺伝子等の検査を実施しています。

【対象】 2017年に石川県で届出のあったCRE感染症9件のうち、石川県保健環境センターに菌株が搬入された8株

【結果】 ・CRE8株のうち、1株（13%）からカルバペネマーゼ遺伝子が検出されました
・検出されたカルバペネマーゼ遺伝子の内訳は、IMP型1株でした

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（全体）

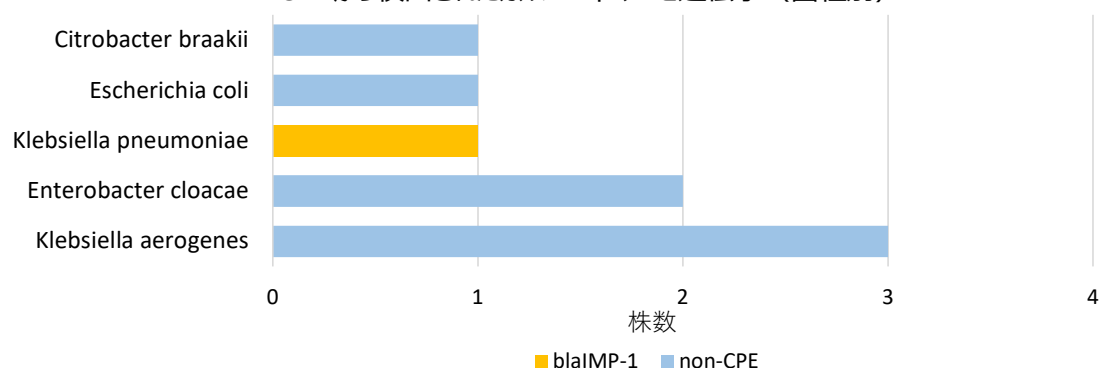


() 内の数字は株数

CPE：カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌

non-CPE：カルバペネマーゼ非産生腸内細菌目細菌

CREから検出されたカルバペネマーゼ遺伝子（菌種別）



全国におけるCRE検出状況

出典：[IASR Vol.39 p162-163:2018年9月号](#)

- ・2017年第1～52週の届出数は1660例であり、そのうち病原体サーベイランスとしてシステムに登録されたものは865株※であった。
- ・上位6菌種は、*Klebsiella aerogenes*（32%）、*Enterobacter cloacae*（29%）、*Klebsiella pneumoniae*（12%）、*Escherichia coli*（10%）、*Serratia marcescens*（5%）、*Citrobacter freundii*（3%）であった。
- ・865株のうち、カルバペネマーゼ遺伝子陽性株は239株（28%）であった。
カルバペネマーゼ遺伝子型の内訳は、IMP型が227株で最も多く、主に海外で多く分離されているNDM型は8株、KPC型は3株、OXA-48型は2株であった。
- ・IMP型陽性株の上位3菌種は、*E. cloacae*（33%）、*K. pneumoniae*（26%）、*E. coli*（20%）であった。

※保菌例など臨床的な届出基準を満たさない患者由来株が一部含まれる可能性がある

更新日：2026年3月11日